

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No. 3 平成29年4月20日発行
発行責任者:古川 正史

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org



組合の良さを分会から確かめ合おう！ みんなで 分会活動をつくらせよう！

各分会で「春の学校づくりの懇談資料」を学び、分会情報を出そう！...という取り組みを進めています。みなさんの分会ではどのように取り組んでいますか？

宗谷教組は、管内のほぼすべての学校に分会があります。今回は、学校に分会があるということ、分会が果たす学校づくりに果たす役割、何よりも自分たちの活動があることについて考えてみましょう。

分会で集う仲間がらうとらうと

宗谷管内約六十校の九割の学校に宗谷教組の分会があります。中には一人分会の学校があれば、一方でひとつの分会で町村の支部と同じくらいの先生方が集

っている分会もあります。宗谷教組に加入する先生方が場所を問わず話してくれる言葉に「仲間の先生がいて心強い」というような組合に集う先生がいてくれることの安心感があります。職場の悩みや愚痴を話せること、自分の学校で起こ

ていることを職場としてではなく、客観的に整理することもできます。昔から、民主的の学校づくりを豊かに実践していかたいは宗谷教組の分会の存在があると言われてきました。

学校に分会がある

た。私たち自身が感じている以上に、かねてから分会の存在は広く大切にされてきました。それは、「本質や方向性」を確かめ合えるたくましさや心強さがあるからだと思っています。こんな話を聞きました。

校長先生から春の職員会議でこれまでなかった取り組みとして「中休みに全校で運動をする時間を取りたい」という提案があった。

唐突なことだったので、先生方の中には「それはどうなんだろう」と思っても、会議ではなかなか議論が広まらず、なんとなくまずはやってみるようになった。

でも、先生方の中には「子どもたちの時間的な余裕の観点で心配」という声や、「全校一斉というのはどうなんだろう」という声があることがあつたから炉辺談話でわかったのです。

あくまでたとえ話です。組合でいえば「子どもたちの実態をもとに一致できることは何か」ということを普段から話しているか、そのために教職員集団として大事にしていきたくことを交流できているかということがあ

裏面に続く

コラム 働き方とライフステージのコト

私たち「学校の先生」にとって、仕事の負担を少しでも減らしながらも、「子どもたちのために」と教育条理を求め合うことは、長年にわたっての課題です。春の学校づくりの懇談資料を扱うにあたって、話題になることもあります。最近では「一斉退勤日」や会議縮減の方策など具体的な取り組みが議論されることもあります。

学校という職場は、20代から50代の先生方までが「上司・部下」という関係よりも、子どもたちのための力合わせの観点から共に働くという特殊性があります。

20代。体力も時間もある時期です。「時間がある限り、授業の準備をしたい！」と思う場合もしばしば...かもしれません。



睡眠時間を削ってもがんばれる若さ、授業技術を身に付けたいという願いとの間で、悩んだりもするかもしれません。「家では仕事したくないから、学校で今日の仕事は終わりたい」という声も聞きます。

30代。だんだん夜更かしが辛くなる時期です。子育て中だと時間の使い方に変化も。保育園の迎えや送りの時間が気になったり、急いでいる時や忙しい時に限って我が子とうまくいかなかったり...。そんな葛藤の中での仕事は「いい塩梅」が見えてくる時期でもあるのかもしれません。ちなみに、宗谷の先生の平均年齢は37歳。

40~50代。「そろそろ教頭受ける？」と宗谷では肩をたたかれる時期に。健康面で不安が出たり、子育てのラストスパートや、両親の介護など、家族構成の変化で忙しさが生まれる時期でもあるのかもしれません。



大事なことは、先生方みんなにとって、働きやすさを考えることです。もうひとつは、「余暇」をどう使うかではないでしょうか。「若いころから続けているスポーツをしているよ」とか、「時間ができたから、新しい趣味を始めてみた」など、学校ではない場所で大人として関わる趣味やつながりがあるというのも教職員としての持ち味を豊かにしてくれます。

先生方みんなにとって働きやすくなれる職場づくりを考えることは、学校づくりを豊かにする上で大切にしたい視点です。

教える「内容」に変化はなくとも、子どもたちに求める姿が変わる？

細かな部分についても研究が必要です。「資質・能力」の明確化に伴って、例えば小学校生活科では、これまで「関心を持つ」とされていた事柄についても、さらに踏み込んで「関わる」となったり、「できるようにする」とまとめられていた文末が「できるようにする」となり、子どもの具体的な活動を求めるようになっていきます。

【例】小学校国語の目標の変化

【現行】
国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

【改訂】
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

- (1)~(3)は、「資質・能力の3つの柱(学力の三要素)」と対応。それぞれ「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に沿って記述されています。



②「資質・能力」による教科教育の変化

前回は、学習指導要領の全体で「資質・能力」という考え方が散りばめられているという点について触れました。二〇〇七年に改正された学校教育法で、いわゆる「学力の三要素」が定義されました。いわゆる「学力」というものが、法的に定義づけられた「学力」を高めるということが、これからは「資質・能力を育む」という言い方に代わることになるのかもしれません。

今回の学習指導要領では、この「学力」が初めて指導要領に取り入れられます。「資質・能力」をベースに各教科の学習指導要領で表記(段落構成)が統一されました。これまでの学習指導要領においては、各教科でベースにある学問との系統性が最も重視されていましたが、今回の表記の統一によって教科の指導内容や系統性はさておき、教科における「資質・能力」こそ重視されていることがわかります。

おもて面からつづき

るでしょう。学校としては「校務運営委員会」などで率直に意見交換しておける土壌はあるのかということも関わってきます。

このたとえ話なら「大事にしたいことは体力をつけること。だとすれば、おのおのが体育の授業を工夫し合おうじゃないか。それは研修部でも校内研修に位置付けるし、指導部でも体育館の遊び方の環境整備を進めるよ」という解決策もあるはず。提案に対して「それはダメだ」では抵抗勢力ではありません。

「共謀罪」審議入り 話し合うことが罪になる

国会で「共謀罪」の審議が始まっています。2020年開催の東京五輪に際してテロ対策が必要ということを根拠に「テロ等組織犯罪準備罪」を創設する「組織犯罪処罰法改正案」の審議です。人権侵害の恐れから、過去3回も廃案になった「共謀罪」、法律に違反する行為を実行しなくとも、話し合っただけで市民を処罰できるという思想や言論に関わる法律が審議されています。

日本の法体系の中で「共謀」とは…

日本において、犯罪として処罰されるものは「既遂」の段階です。具体的な行為が社会に損害を与えた段階で初めて犯罪とする原則です。犯罪は「既遂」の前段階として「共謀」「予備」「未遂」という段階があります。

例えば、「人が殺人をしようと相談する」ことは「共謀」、「殺人のためのナイフを買うなど準備する」ことは「予備罪」、「実際に殺人を行おうとしたが失敗した」場合は「未遂」です。

「共謀」や「既遂」とは… 殺人事件の場合

計画 「組織的犯罪集団」が具体的に話し合う

準備行為 ナイフを買う
お金を用意

予備 ナイフを準備

未遂 ナイフで襲い掛かる
(命は助かる)

既遂 ナイフで襲い命を奪う

この段階で処罰可能!

朝日新聞 2017.2.2 を元に作成

無断でキノコを採ったら「共謀罪」!

この法案の大きな問題は、実際に犯罪が実行されていないのに、「共謀」(二相談)や計画をただけで処罰することです。警察は犯罪が起こる前から市民が何を考え、何を相談しているのかという内心に踏み込んで捜査することになります。「共謀罪」の捜査対象は、「組織的犯罪集団」とされていますが、その定義があいまいです。

国会答弁では、保安林内で無断でキノコを採取することは、組織的犯罪集団の資金源になるとして森林法違反の共謀になるとされています。これでは一般の市民や団体がいつ捜査の対象になるかわかりません。ここに大きな問題があります。

寄せ書き方式
賃金交渉の時の「ひとこと要求書」のようにそれぞれが思いを書いていく方法です。絵が上手な先生がいたり、味のある字で彩りを飾れる先生がいたり、もちろん見た目が重要というところではありません。ひとりひとりの学校づく


め合う機会にもなります。

組の分会があることの良さなのです。

集していることと思えます。その「おたより」にはどんな願いを込めていますか? 宗谷教組の分会が発信する「おたより」にはいくつかの意味があつて、それが職場づくりを激励することにつながります。ひとつは、「学校づくりを激励する」ということ。『うちの学校のココ、いいよね』ということを伝えることは激励になります。さらには、組合運動で見たり聞いたりしたことを紹介することで『あ、そういうコトもあるんだ』と学校づくりに生かされる視点がうまれること。そして、学習会のお誘いや、参加した学習会の報告など『こんな、つながりもいいね』ということを確認

宗谷教組青年部学習会

センたま in Soya



4月8日、今年度最初のセンたま in Soyaを開催しました。参加者は8名でした。

分会情報のあれこれ
みなさんの分会では、春の学校づくりの懇談資料を活用した校長先生との懇談は終えましたか? 今年は「全分会で、先生方の学んだことや懇談の内容を『分会情報』で発信しよう」と確かめ合いました。分会情報といつても、この宗谷情報のように文章でまとめることももちろんできます。では、こんな方法はどうでしょうか?

まずは自己紹介から始まり、近況報告をいたしました。今春大学を卒業し、「4月1日から働き始めました」という先生が3名いて、みなさん「何もかもわからないので、たくさん学びたいです!」と意欲満々でした。

今回はアドバイザーとして、稚内市教育研究所所長の江川先生をお招きしました。子どもとの信頼関係づくりや学級づくり・授業づくりについて、たくさんアドバイスを頂きました。参加された先生方の悩みや不安が解消されたのでは…と思います。

来月は学び愛フェスタです。青年部が運営しているものではありませんが、ぜひ皆さんで集い、学び合いましょう。次回のセンたま in Soyaは6月10日(土)です。出張センたま in 礼文です! 礼文の先生方、待っていてください!! 礼文以外の先生方、一緒に行きましょう!!

また以前お知らせしていた内容では、7月は「出張センたま in 幌延」とお知らせしていましたが、諸事情により延期します。今後の大まかな日程は以下の通りです。

- 5/13 学び愛フェスタ
- 6/10 出張センたま in 礼文 (場所・時間・テーマは今後調整)
- 7/ 8 センたま in Soya
稚内北星学園大学 14:00~16:30 テーマ「評価と所見」
- 8/12 夏休みなのでお休み
- 9/ 9 出張センたま in 利尻島 (場所・時間・テーマは今後調整)
※出張センたま in 幌延は12月に開催予定。

言の葉 editorial note

◆支部代表者会議での出来事。街にホームセンターがない支部の先生が、この春宗谷に来たばかりの先生を稚内まで乗せてきてくれたそう。また、青年部「センたま」や臨教部学習会でも、職場の先生が会場まで一緒に来てくれる場面も。◆学習会の会場で。初めての場所に行くって勇気があるものです。そんな中で、「どーもー」とか言いながら、「今度、うちに来た〇〇先生です」と紹介してくれるだけでも、すごく背中を押してもらえてる気持ちが増すものです。世代が変わっても、こうして誘い合ったり、「一緒に行ってみよう」とお誘いするというのが脈々と受け継がれるのは、私たちもそうしてもらったから…なのでしょう。◆「宗谷に初めて来たときに、先輩にお世話になったなあ」— こうした思いから、教師としての自分に深まりを持たせたり、「次は自分が何できるかな」とつながるのかもしれない。ひとりひとりが「次は自分が…」と思うことこそ、教育をより良くしていくのかなと思ったりします。(natty)

紙上分会会議
回覧などの形で、テーマや質問に応じてひとりひとりが考えを書いたり、質問を書いたり答えたり…。みんなで集まる分会会議がなかなかできない時などに、効果を発揮するアイデアです。

りへの思いを確かめ合うことが大事なのです。